

ジャーナリスト

開米 潤  
かいまい じゅん



# 「決して悲観せず、若者の活字離れ」

私は図書館の「ペーパー・ユーザー」である。仕事柄、図書館にしかない古書を探し求めて読まなければならぬことが多々あるのだが、これまで旅先でも暇が出来ると当地の図書館に足を寄せることがしばしばあった。考えてみると、お酒ばかり飲んでた新聞記者時代の一時を除けば、図書館通いと読書は学生時代から続いている唯一の習慣かもしれない。そのきっかけをつくってくれたのは大学時代の図書館である。

豊島区立中央図書館の顧問をしていらつしやる評論家の粕谷一希氏が中央公論社を辞めた後の一時期、母

# と しょ かん づう しん

## と しょ かん づう しん

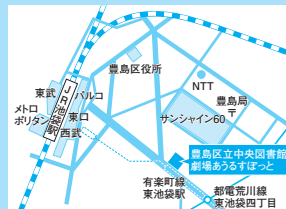


第25号  
季刊(夏)  
2012

### トピックス

- 巻頭言 ジャーナリスト 開米潤……………1ページ
- 図書館と私 目白図書館運営専門員 松山操……………2ページ
- ザ・レファレンス 郷土資料館学芸員 秋山伸一……………2ページ
- 生涯の一冊 豊島区立中央図書館長 山根高……………2ページ
- 二人の明治ルネッサンス 豊島区図書館専門研究員 水谷千尋……………3ページ
- 祝・文部科学大臣表彰……………3ページ
- 豊島区子ども読書に関する講習会……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

発行 ●豊島区立中央図書館  
東京都豊島区東池袋四一五一一  
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442  
電話 ●03-3983-7861  
FAX ●03-3983-9904  
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/  
発行日 ●平成24年7月



校の非常勤講師をしてもらった。講義を聴講するたびに読書することの大切さを私たちに教え導いてくれた。私は決していい学生ではなかったが、また、みずみずしかった私の感性は大いに刺激を受けた。以後、読書三昧の日々。朝、大学の図書館にまっすぐに通い、夕方、下宿に戻っても読書。ある日、本を読み始め、気がつく、スヌメが外でチュンチュン鳴いていた。こんな贅沢な時間を過ごせたのも、学生時代の特権だった。そんな小さな積み重ねがあったからこそ、今、ささやかな自信につながっているような気持ちはある。

## 千早図書館の移転について

### 新航路 [23]

日頃より、中央図書館をご利用いただきありがとうございます。

中央図書館は、今月で移転・開館後5周年を迎えました。いまでも多くの区民の皆さまが来館されています。ありがとうございます。

さて、区立図書館全体を見回すと、次に新しくなる図書館は千早図書館の予定です。区内で3番目の図書館として昭和46年6月1日にオープンした千早図書館は、今年で開館42年目に入りました。区内西部地域に初めてできた千早図書館は、開館当初は入館を待つ人の行列が道路にまではみ出してしまふほどで、待ちに待った図書館だったようです。

そんな千早図書館も40数年の歳月が流れ、建物も老朽化

してきました。すでに豊島区ホームページ等を通じてお知らせしていますが、平成27年度の開館を目指して現在準備を進めています。今度の千早図書館は、現在の場所から直線で200メートルほど離れた、現在西部区民事務所がある場所に移転します。ここは、図書館だけではなく他の区立施設も入る複合施設です。区民事務所、地域文化創造館、(仮称)芸術文化資料館、保健福祉センターなどです。千早図書館では、このような複合施設のメリットを最大限に生かして緊密に連携しながら図書館運営を行いたいと考えています。

今後もこの紙面などを通じて、新しい千早図書館の情報をお伝えします。また、少し先の話ですが移転等に併い休館等も発生します。順次、図書館ホームページ、「広報としま」などでお知らせします。

## Current & Encounter

### 『動物的精氣』について

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

西田幾多郎(たから)についてはもうひとこま面白い評言がある。京大哲学科の同世代の同僚である芸術論の深田康算の言葉である。

—あの人には、動物的精氣、がありますね。

これをラテン語で表現したとのこと。これは誰も見なかった姿である。堂々めぐりだ。戦争に協力したといった罵倒は誰も聞いていないが深田さんの言葉はもう少し奥を見ている。四高をストライキのため中途退学した西田や大拙は大学の選科しか入れなかった。その彼には近代のヨーロッパ語以上の学問をやる余裕はなかったであろう。ケール先生に「げんげん顔をされた」という。しかし西田は座禅によつてそうした自分を越えたのであろう。彼は自分より能力的に優れている人を京大に呼んだ。波多野精一、田辺元、和辻哲郎、九鬼周造など、宗教哲学の講座は自分ももっている講座だったのに、サッサと波多野に譲ったという。田辺元とは最後は誤解を産んだようだが、和辻も九鬼も西田の人徳になびいていた。

三木清の場合は西田でも底切れなかったようだが、最後まで西田は心配していた。唐木順三とは獄中の三木の動静についてヒソヒソ話をしていた。その西田は昭和二十年六月に死んでしまうので三木の死を知らない。とにかく西田は一人ひとりの対話の姿勢を止めなかった。最後に早く死んだ妻のために独身生活をつづけた自分と家族のために、後妻をもらった。岩波茂雄の世話である。もうひとこま、一緒に四高を追われた鈴木大拙が禅の仲間であり、米国にわたって英語でアメリカ人に日本仏教の講義をした。旧友にそうした同志がいると心強いものがある。大拙の仏教説も面白い。やはりこの場合も群をなして人材は輩出するものなのだ。戦後を生きた西谷啓治の弟子・上田昭昭氏によつて、西田像も甦った。人間の評価にはそのくらいの時間がかかるものなのだ。

一九五七年、福島県生まれ。東京外国語大学卒。共同通信記者、「外交通ライム」編集顧問などをを経て株式会社メディアグループを設立、代表に就任。著書に「松本重治」(最後のリハリス)、「藤原書店」(二〇〇九年)、監訳書に「チャールズ・ヒード著 ルースベルトの責任 日米開戦はなぜ起きたか」(上下巻、藤原書店、二〇一一年)、英訳書「WATSWOTO SHIGEHARU BEARING WITNESS」(長銀国際「フットー」叢書、二〇一二年)

生涯の一冊 (24)

図書館と私 12

目白図書館運営専門員 松山 操

図書館の成長に関わる喜び

今を遡ること数十年前、明確な目標もないままに、某大学の文学部に進んだ私は、専攻を決める決め手がなく迷っていた。色々迷っているうちに、急浮上したのが「図書館情報学科」という小さな学科。何やら自分たちだけの図書館も持っていてアットホームな感じ。「そろそろ私は本を読むことは好きだけれど、いわゆる文系人間ではないから、情報という言葉がついているこの学科、ぴったりかもしれない」という少々安直な気持ちで進んだのが、この道との出逢いだった。

は成長する有機体である」という言葉を体感することができたという意味で、本当に貴重な日々であった。子育てと並行しながらの仕事だったので、その図書館は、今でも3番目の子どものように愛おしく思える存在である。

そして、2年前に縁があって豊島区の図書館で働く機会を得た私は、当初の館種の違いに戸惑う時期を経て、館種を超えて見える図書館の本質に向き合うことを心がけつつ、日々の仕事に精進している。

そのすべてを語るには、この紙面では足りないけれど、一つだけ大切にしている言葉でこの拙文を締めたいと思う。「図書館に来てくれた利用者を空っぽの気持ちで帰さないこと」・「来て良かった。また来てみようと思える空間であること」である。図書館を作っているのは、魅力ある「蔵書」・専門職としての「司書」・何かを求めてそこにやってくる「利用者の方々」の3つで、そのどれを欠いても成り立たないものだから…この事を肝に銘じ、司書という道をこれからも一歩一歩、歩んでいきたい。

動機があいまいだったからか、3年間濃密に図書館に関わり過ぎたためか？卒業後すぐに図書館には進まなかった私は、プログラマー・出版社勤務等多少の回り道をしながら、某企業の図書館と出会うことになった。そこは、外からイメージしていたものとは違い、わずか数千冊の蔵書しか持っていない、まさに生まれればかりの図書館だった。それが、4万冊弱の蔵書を備え、充実していく過程を共に歩むことができた15年間は、かの図書館学の父ランガナンが残した名言「図書館



書名:『金髪のマーガレット』  
作者: エレナ=ポーター  
編訳者: 谷村まち子  
発行: 偕成社



豊島区立中央図書館長  
やまね ひとし  
山根 齋

「金髪のマーガレット」

昭和39年、東京オリンピックが開催された年の3月に、私は小学校を卒業した。小学校は、鳥取の田舎の小学校で、卒業して10年目に統合されて今はないが、校舎だった木造2階建ての建物は、建築後60年近くになる現在もまだ残っていて倉庫として利用されている。

小学生のとき、その校舎の2階の西の端にあった図書室の本を卒業までに全部読んでやろうとせよと毎日借り出していた。当時読んだ本の内容はほとんど忘れてしまったのに、唯一に残っているのが全集中の一冊で『金髪のマーガレット』という物語である。主人公はマーガレットという5歳の女の子で、母親と

一緒に街に出かけた際、はぐれてしまい、ニューヨークの裏まちで一人苦労しながら生活していく話である。探しにきた母親ともう少しのところで行き違ってしまうところなどは、切ない思いがこみあげ、面白い物語を作るときはこういう方法を使うのか、などと考えながら読んで記憶がある。

インターネットで検索してみると、この本は、偕成社版『世界名作少女文学全集』の1冊で、著者はアメリカの女流作家のエレナ・ポーター、訳者は谷村まち子、挿画は田村耕介となっている。区立図書館の蔵書に見当たらないので、アマゾンで購入して再読してみた。手元に

届いたものは改装版だったが、内容は同じと思われ、当時の記憶が甦ってきた。この本のことをあまり友達に話さなかったが、それはこの本が「少女文学全集」でなくとなく気恥ずかしかったからである。

当時の文学全集は少女向けと少年少女向けに出版されていたようだが、読書によって育まれ、社会が期待する少年・少女像について社会のコンセンサスがあったのである。全集は絶版となっているが、子どもに対する時代の要求が変わってきたからだろうか。今読んでみてもまったく古びていないこの物語が全集と運命を共にしたとすれば残念なことである。

ザ・レファレンス  
—豊島区の歴史・文化がわかる本⑩—  
ご案内: 秋山 伸一(あきやま しんいち) 郷土資料館学芸員

豊島区内で最初にできた駅が目白駅と聞いたのですが…

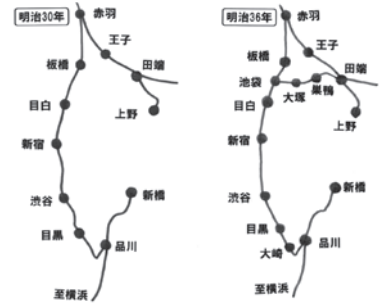
「それは違うでしょ～! 池袋駅じゃないの?」と思われる読者の皆さんも多いと思いますが、本当に目白駅なのです。

目白駅は、日本鉄道品川線(品川-赤羽)の駅の一つとして明治18(1885)年3月16日に開業しました。この区間に品川-目黒-渋谷-新宿-目白-板橋-赤羽のわずか7駅しかない時代です。駅名となった「目白」は、江戸時代以来信仰を集めていた五色不動(目黒・目青・目黄・目白・目赤)の一つ目白不動が、現在の文京区関口二丁目にあった新長谷寺(1945年廃寺)に祀られており(現在は豊島区高田二丁目の金乗院)、目白不動にちなんでつけられたものです(右図参照)。

一方の池袋駅は、日本鉄道豊島線(池袋-田端)敷設時に、大塚駅・巣鴨駅とともに明治36年4月1日に開業しました(右図参照)。駒込駅は明治43年11月15日開業)。池袋駅は、今でこそ1日の利用者が平均271万人という巨大ターミナル駅となっていますが、開業当時は寂しい田舎駅だったようです。ちなみに、山手線が現在のような環状運転となるのは大正14(1925)年のことです。

豊島区内の山手線「駅」事情が知られるものとして、中村建治著『山手線誕生』(イカロス出版、2005年)があります。これは、日本鉄道品川線敷設から山手線の環状運転までの道のりを資料に基づいて記したものです。また、巴川享則・三宅俊彦著『タイムスリップ山手線』(大正出版、2003年)は、山手線の駅ごとの紹介と懐かしい写真等で読みやすく構成。さらに、豊島区立郷土資料館編『えきぶくろ』(豊島区発行、2004年)は、池袋駅とその周辺地域の詳細を、駅開業から最近まで歴史的に跡づけています。なお、<sup>くろく</sup>向きのものとしては、東京都公文書館所蔵の「東京府文書」、および交通博物館(当時)所蔵の「鉄道院文書」を中心に、豊島区に関わる日本鉄道関連文書を<sup>ほんこく</sup>翻刻した豊島区立郷土資料館編『調査報告書第18集 鉄道史料集I-日本鉄道編一』(豊島区、2006年)をあげることができます。

豊島区の歴史を考えていく際、思いもなかった意外な発見をすることがあります。そうした“意外史”に遭遇した折には、ぜひ郷土資料館へも教えて下さいね。



# 二人の「明治ルネッサンス人」◆ 田口卯吉と根津嘉一郎 (初代)

豊島区図書館専門研究員 水谷 千尋

1937年生。東大農業経済学科卒。戦学研究会図書出版委員長、秀潤社社長、豊島区新中央図書館有識者懇談会委員を経て現職。



田口卯吉  
(写真協力：筑摩書房)

田口卯吉は安政二年（1855年）に目白台徒士屋敷に生まれた。根津嘉一郎（初代）は万延元年（1860年）甲州笛吹川沿岸の幕府天領養蚕地帯の農家に生まれ、明治維新幕開け（1868年）を卯吉は十三歳、嘉一郎は八歳で迎えた。卯吉は、旧幕臣出身とはいえず、徒士という下級武士の出身だが、曾祖父は佐藤一斎門弟に佐久間象山や渡辺華山たちを育てた大儒者で、著書に『言志四録』がある。

明治政府要人は、西国の雄藩出身者が占めたが、旧幕臣や名士の江戸っ子や、武蔵人庶民出の俊才は、思想、文学、ジャーナリズム、出版印刷、教育などの文化分野、民間経済分野、科学技術分野で活動したケースが多い。田口も根津も、薩長藩閥には在野の立場を貫いた。田口は、「敗者」幕臣とはいえず、旧幕臣の誇りと節義があり、言論出版事業には、渋沢栄一や旧幕臣佐久間貞一たちの協力があつた。根津も在野精神を貫いた。

### 武蔵・両毛生糸養蚕地帯の文化基盤

明治期、田口の自由貿易論など経済・社会評論は非藩閥在野の立場から言論界をリードしていった。田口と根津とは直接交流の形跡はないが、二人は後年、衆議院議員時代多少の交流はあつたかもしれない。根津は、田口の良き読者であつた可能性がある。

田口の自由貿易論の根底には、日本という独立国が、当時の世界の中で、いかに開化発展していくのか、日本の伝統文化と近代化をともに



根津嘉一郎（初代）  
(写真協力：武蔵学園記念室)

発展させる日本独自のアイデンティティーを模索し、これを行働の土台に据えていかなくてはならない、田口の不平等条約改正の議論にもそれが根底にある。「日本開化小史」は日本の文化史と経済史から日本のアイデンティティーを導きだす近代日本初の日本文化啓蒙書であり、その見方は今日でも通用する。

両毛鉄道を生糸輸出のシルクルートとして、横浜から英米へ輸出する田口の鉄道構想は、英国史から、両毛を日本のマンチエスターに、横浜を輸出港リバプールになぞらえた構想であつた。英国傾斜の近代化路線一辺倒ではない、田口は、経済雑誌社から、近現代歴史学の基本資料である『国史大系』（正統、日本書紀、徳川実記など）を初めて活版で刊行した。また幕末に『塙保己一』（1746-1821年）が盲目の生涯をかけて編集した『群書類従』（正統）を同社で活版初刊行、歴史研究雑誌『史海』をも発行した。

塙保己一は、渋沢と同じ武蔵国児玉郡養蚕地帯の農民の生まれ、幼時の重い病から盲目になり、十三歳で絹商人を道連れに江戸に出府、日夜研鑽、良師・口述協力者に恵まれ、希代の秀才で古今の文献資料に精通、上州人大蔵書家の僧常照院の助言で和学講談所を興し、幕府、寺社、民間の援助を得、日本古代からの国政・律令、有職故実、諸家系図、物語、歌集の文芸や、日記・記録など古典資料の史上最大の叢書を編集した。後世の歴史学・国文学の研究資料文献として多大な学問的価値をもたらした。

塙保己一、田口卯吉、渋沢栄一も幕府に関わつた武蔵人、武蔵・上毛の生糸養蚕地帯を私鉄で繋げたのは根津嘉一郎、ともに日本歴史文化への強い意識の核を持ち、世界の中で日本人のアイデンティティーを求めた。嘉一郎は、育英教育で、旧制武蔵高等学校を創立し、世界で通用する精神と能力をもつた知的青年を育てた。茶の湯、美術収集・美術館創設に文化的精神を生かしていった。江戸から明治へ、武蔵・両毛生糸輸出養蚕地帯には素材に光沢を与える特有の文化の形を見るのである。

## 祝 文部科学大臣表彰

豊島区立中央図書館では、「豊島区子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成22年策定）に基づき「児童が図書館と本に親しむための活動」に取り組んできました。この度、この取り組みが認められ、平成24年度「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞しました。



## 豊島区子どもの読書に関する講習会

「子どもの科学の本っておもしろい～科学あそびとつなげよう～」

- 内容** 子どもとともに科学を実際に楽しむために、楽しい科学の本と科学あそびを紹介します。そして身近な材料で、科学に興味をもつきっかけとなるよう、いろいろな物を作ります。
- 講師** 坂口 美佳子（さかぐち みかこ）氏  
※科学読物研究会・仮説実験授業研究会「開楽クラブ」会員 子どもと科学をつなぐ会会員・サイエンスキャラバン311会員  
「科学の本と体験のキャッチボール」をモットーに、子ども向けの科学の本の紹介・科学あそびについての講演活動や授業を行っている。  
主な著書：岩波書店「理科読をはじめよう」・連合出版「科学あそびだいすきシリーズ」・科学の本おもしろいシリーズ」（いずれも共著）。その他多数著書あり。
- 日時** 平成24年7月3日（火） 午前10時30分～12時30分
- 会場** あつるすぽっと 会議室B（豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階）
- 費用** 無料
- 募集** 70名
- 対象** 豊島区内の幼稚園・小学校・児童館など教育・福祉施設で読み聞かせボランティアをしている方。また、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方。
- 申し込み** 平成24年6月1日（金） 午前10時より中央図書館カウンターまたは電話にて申し込み（先着順に受講者決定。定員に達し次第締め切り）
- 保育** あり（未就学児5名程度。事前申込が必要。先着順。）
- 問い合わせ** 豊島区立中央図書館 児童・YAグループ 電話 03-3983-7861

# 図書館イベント情報

## ◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

各図書館の連絡先

中央図書館	3983-7861	池袋図書館	3985-7981
駒込図書館	3940-5751	目白図書館	3950-7121
巣鴨図書館	3910-3608	千早図書館	3955-8361
上池袋図書館	3940-1779	蔵司が谷図書貸出コーナー	3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	7月	8月	9月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★1日・おはなしこうさく会 午後2時	★1日・こども点字教室 午前10時30分※ ★5日・夏休みこうさく会 午後2時※	★2日・おはなしこうさく会 午後2時 ★30日・ボランティアによるおはなし会 午後2時(池袋親子読書会)
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 午後3時 (9/22はお休み)	—	★28日・こどもえいかがい 午後3時 「ふしぎないど」(18分) 「こぎつねコンとこだめきボン」(21分)	★4日・こうさくかい 午後3時 ★11日・こうさくかい 午後3時 ★25日・こうさくかい 午後3時	
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★4日・ほんのじかん セブンスペシャル 午後3時 ★25日・ほんのじかん 工作 午後3時	★1日・ほんのじかん 工作 午後3時 ★15日・ほんのじかん こわいおはなしスペシャル 午後3時 ★22日・ほんのじかん こどもえいかがい 午後3時 「3丁目物語・夏タマの生まれた時の話」(25分)	★12日・ほんのじかん スライド 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★4日・さくらんぼおはなしかい たなばたスペシャル 午後3時※ ★25日・さくらんぼえいかがい 午後3時※ 「ちびまるこちゃん 先生の家に遊びに行こう」(24分)	★8日・さくらんぼこうさくかい 午後3時※(スライムを作ろう) ★22日・さくらんぼおはなしかい こわいおはなしスペシャル 午後3時※ ★29日・さくらんぼえいかがい 午後3時※ 「おぼけうらなうかい」(25分)	★26日・さくらんぼえいかがい 午後3時※ 「ディズニーの三びきのこぶた」(9分) 「一休さん」(11分)
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★7日・たんぼぼこうさくかい 午後2時 夏の壁飾り作り(折り紙などを使って) ★28日・たんぼぼえいかがい 午後2時 「あかずきん」(19分)	★25日・たんぼぼえいかがい 午後2時 「てんまのとらやん」(17分)	★22日・たんぼぼえいかがい 午後2時 「花ざき山」(14分)
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★25日・かきくこうさくかい 午後3時 「チョキチョキくわがた」	★22日・あいうえおはなしかい こわいおはなしスペシャル 午後3時	★26日・科学あそび 午後3時 「ふしぎ?おどろき!トリックアート」
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★25日・ほんとおはなしかい 夏休みスペシャル 午後3時30分		

## ◆“平和について考えよう”～図書館 平和普及事業のご案内～

夏休み中に「平和」をテーマとした図書の展示や映画会、おはなし会などを開催します。

館名	実施日及び実施期間	行事名	内容
中央図書館	7/28(土)～8/23(木)	平和について考えよう	児童書展示
駒込図書館	7/28(土)～8/23(木)	なぜあそぶの? ～みんなで考える平和～	児童書展示
巣鴨図書館	7/28(土)～8/23(木)	みんなで考える平和	一般書・児童書合同展示
上池袋図書館	①7/28(土)～8/23(木) ②8/15(水) 15時～	平和について考えよう	①一般書展示・児童書展示 ②映画会 「字のないはがき」(18分) 「せんすい艦に恋をしたクジラの話」(15分)
池袋図書館	7/28(土)～8/23(木)	平和について考えよう	一般書・児童書合同展示
目白図書館	①7/28(土)～8/23(木) ②8/15(水) 15時～	平和について考えよう	①児童書展示 ②おはなし会
千早図書館	①7/28(土)～8/23(木) ②8/8(水) 15時30分～	平和について考えよう	①児童書展示 ②おはなし会(ミニブックトーク・読み聞かせなど)

## 千早図書館友の会主催「千早進歩自由夢月例会」

※申込不要ですが、定員は50名です(先着順)

### ◆千早進歩自由夢(7月例会)

#### 講演会「森鷗外と明治の日本」

日程 7月14日(土) 14時から16時(開場:13時30分)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

講師 立堀隆三氏(宗学塾塾長)

講演内容 およそ一世紀前に、日本は文明開化という強い衝撃を受けました。文学においても近代を開こうとした人は多く、中でも自身に大きな犠牲を払いつつも、身をもって作品化しようとする生涯をかけて明治の日本に挑戦し続けたのが、森鷗外と夏目漱石でしょう。

今回は、森鷗外が今年生誕150年であることを記念して、その創作エネルギーは「恨み」であったという鷗外の第一作『舞姫』を、眼で読むだけでなく、朗読という耳からの鑑賞を通して、鷗外の人生と作品のつながりを見ていきます。時間の余裕があれば、朗読のワークショップもおこないます。

講師略歴 都立葛飾野高校教諭、都立足立高校校長、帝京大学講師などを歴任。

他にクラツーツリズム 文学・歴史散歩クラブ顧問・講師など。

定員 50名(先着順)

### ◆千早進歩自由夢(9月例会)

#### バイオリンコンサート「佐藤美代子の世界一音は宇宙より」

日時 9月29日(土) 14時から16時(開場:13時30分)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

演奏 バイオリニスト・佐藤美代子氏

内容 パッサ「無伴奏バイオリンのためのパルティータ」などのバイオリンの名曲や、日本の歌などを演奏していただきます。また、演奏だけではなく、バイオリンについての興味深いお話や、海外生活が豊富な佐藤氏の外国における様々なエピソードなどもお楽しみください。バイオリン演奏体験の時間もあります。生まれて初めてでも、誰でもきれいな音が出来ます!!年齢制限はありませんので、お年寄りから子どもまでふるってご参加ください。

出演者略歴 東京藝術大学器楽科入学後、渡仏。国費留学生としてパリ・コンセルヴァトワールに学び、バイオリン科一等賞首席で卒業。以後、ソリストとして演奏活動を始め、世界各地で多くの演奏活動をおこなう。

武蔵野音楽大学非常勤講師、東京ソリスト・コンサートミストレス、フェリス学院大学音楽学部教授を歴任。

現在では、身近でバイオリンの音を楽しんでもらうコンサートや、日本国内およびパリやドイツなどで積極的にこなしている。

定員 50名(先着順)

## 編集後記

7月27日からロンドンオリンピックが、8月29日からはロンドンパラリンピックが始まります。ところで、図書館には「ロンドン」に関する本が400冊近くあるのを「ロンドン」を見ながら、図書館から借りた本でロンドンについて調べてみるのも楽しいかもしれませんね。(恩)

## 図書館 タンティイ

図書館クイズに挑戦して、きみも図書館タンティイになる!

図書館にあるたぐさんの本の中から答えを探すクイズ形式の催しです。

日時: 7月28日(土)～8月5日(日)  
開催～午後4時30分

対象: 小学生

定員: なし

詳細は各館へお問い合わせください。

- |        |             |
|--------|-------------|
| 中央図書館  | ☎ 3983-7861 |
| 駒込図書館  | ☎ 3940-5751 |
| 巣鴨図書館  | ☎ 3910-3608 |
| 上池袋図書館 | ☎ 3940-1779 |
| 池袋図書館  | ☎ 3985-7981 |
| 目白図書館  | ☎ 3950-7121 |
| 千早図書館  | ☎ 3955-8361 |

○は土日祝  
■は休館日

中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館	蔵司が谷図書貸出コーナー
開館時間・ 平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時	開館時間・ 平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後5時	開館時間・ 平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
7月 ① 2 3 4 5 6 ⑦ ⑧ 9 10 11 12 13 ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ 18 19 20 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31	① 2 3 4 5 6 ⑦ ⑧ 9 10 11 12 13 ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ 18 19 20 ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31	① 2 3 4 5 6 ⑦ ⑧ 9 10 11 12 13 ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ 18 19 20 ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31
8月 ⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ 14 15 16 17 ⑱ ⑲ 20 21 22 23 ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31	⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ 14 15 16 17 ⑱ ⑲ 20 21 22 23 ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31	⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ 14 15 16 17 ⑱ ⑲ 20 21 22 23 ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30 31
9月 ② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 18 19 20 21 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 18 19 20 21 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 18 19 20 21 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ 30

## 図書館カレンダー